Brief uit Namibië
～ナミビアからのお手紙～

ナミビア通信　第 4 号
2026 年 10 月
JICA 海外協力隊 2024-2 次隊
環境教育　星野みなみ

みなさんお久しぶりです！　JICA 海外協力隊の星野です。前回のお便りから1年が経ってしまっていました💦 大きく体調を崩すこともなく、元気に安全にナミビアで過ごさせていただいてます😌
今回は、私の活動について紹介したいと思います🚯🗑️🧻

配属先「Outjo Municipality」

私の配属先は Outjo Municipality（オウチョ役場）になります。オウチョ役場は観光客が集まるお土産屋の隣に位置しているので、役場周辺で日本人観光客を見かけることも多いです。過去にも協力隊員がここに派遣されており、現在も私含め２名の隊員がいるので、Outjo に立ち寄った際は役場を覗いてみると、協力隊員に会えるかもしれないです。

私の主な活動は環境衛生課で不法投棄を減らすことと、食事前の手洗いを普及することです。



オウチョ役場の外観

活動①「不法投棄を減らす活動」

オウチョの町中にはいくつかのポイ捨て禁止看板とゴミ箱が設置されており、さらにエリアごとに週一度の家庭ゴミのゴミ回収も行われています。しかし、ゴミ箱が近くにあってもその場にゴミを捨ててしまう、家庭ゴミを収集日に出さず、不法投棄してしまう住民が後を立ちません。



オウチョのゴミ収集車は日本車で、日本のゴミ収集車と同じです。



ゴミ処理施設はなく、ゴミ捨て場のみです。そこにはゴミの中から食べ物やお金になる物を探す貧困層の人々がいます。



↑町中にあるポイ捨て禁止看板



町中にいくつか設置されているゴミ箱。その周りにもゴミは落ちています。



←ゴミ捨て場ではないのに、不法投棄が続いてしまっている場所。

役場のスタッフだけでゴミを片付けてもまた不法投棄されてしまうので、住民の意識から変えるべく、学校での出前授業、住民参加のゴミ拾いイベント、ポイ捨て禁止看板の改良＆増加などに取り組んでいます。



住民参加型のゴミ拾いキャンペーン。豊橋の 530 運動の袋と幟を持ってきているので、コラボさせたいです。



↑学校での出前授業



写真入りで目を引きやすいポイ捨て禁止看板のデザイン。なかなか発注してもらえず、まだ設置に至っておらず…。 →

活動②「食事前の手洗いを普及する活動」

環境教育隊員ですが、配属先の要請には公衆衛生分野も含まれており、食事前の手洗いを普及する活動も取り入れています。オープンマーケットと呼ばれる露店が集まる場所で昼食をとる人が多いので、そこで食事前手洗い指導を行っています。しかし、綺麗な水の確保が難しかったり、手洗い用水バケツがすぐに壊されてしまったり、手洗いにたどり着くまでの課題がいっぱいです。



↑洗剤を混ぜた手洗い用の水。汚れたら火にかけて沸騰させ再利用していますが、衛生的ではないです。



←州立病院が5つの手洗いバケツを寄付してくれましたが、4つは壊されてしまい、残り一つに。



↑手洗いワークショップの様子

異国の地で０から１を生み出すことは非常に難しく、仕事の進め方も日本と全く違うので１年半経った今でも苦戦することが多いです。活動は牛歩以下のスピードではありますが、周りのナミビア人に助けてもらいながら進んでいるのかなという感じです。私ひとりで何かを大きく変えられるわけではないので、成果はなくても自分にできることを通してより多くのナミビア人と関わることが一番大切なのかなと思っています。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

次回はナミビアの美容事情についてお伝えしたいと思います✨